

チョイソコいしい

はじめに

高齢になっても住み慣れた町で暮らし続けるためには、松山市地域公共交通網形成計画 3.地域の現状 に記載のあるように、公共交通の利用環境の向上が必要不可欠です。

私たちの住む石井地区は、天山・天山町・今在家町・土居町・星岡町・朝生田町・西石井・東石井・和泉北・古川北・古川南・古川西・今在家・和泉南・居相・北井門・星岡・越智・北土居から構成される地域で、国道 33 号には大型量販店が並びます。人口はおよそ 58,000 人、うち 75 歳以上人口がおよそ 8,400 人。松山市地域公共交通網形成計画によると、不便地域・空白地域の人口比率が高くなっています。(22~44%に増加)

3. 地域の現状

3.2.2 まちづくりの現状と課題

項目	現状	課題
居住や都市機能施設を誘導 (誘導区域内)	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化の進展により、日常の移動が容易にできない人が増加してくると見込まれる。 公共交通の利用圏内であっても、人口密度の低下に伴い利用者の減少が見込まれる地域では、便数の減少や路線の廃止等のサービス低下が懸念される。 	
生活サービス施設の利便性・持続可能性	<ul style="list-style-type: none"> 人口密度の低下が見込まれる地域に立地する施設は、利用者の減少に伴い、施設の維持が困難になってくることが予想される。 施設の周辺地域では、各種サービスを容易に受けることができなくなることが懸念される。 	公共交通の利用環境の向上に向けた施策の検討 <ul style="list-style-type: none"> 公共交通軸の強化 路線再編の検討 利便性の向上 利用促進策の推進 コミュニティ交通の導入検討
高齢者の福祉・健康	<ul style="list-style-type: none"> 人口が減少する地域では、公共交通の維持が困難となり、高齢者等の外出機会が低下する可能性がある。 高齢者が増加する地域で、日常生活に必要な施設が近くにない地域では、サービスの利便性が低下することが懸念される。 	

地域区分	地区	現 状	課 題 (下線は優先して対応する課題)	主な課題に 対する 解決の方向性
南東部	<ul style="list-style-type: none"> ・素鷲 ・桑原 ・久米 ・小野 ・浮穴 ・石井 計6地区	<ul style="list-style-type: none"> ・人口は減少傾向（公共交通利用者減少） ・高齢化の進展（32～36%に増加） ・伊予鉄道、バス路線が通過 ・拠点地区を設定 ・居住誘導区域は素鷲の面積比（約90%）が大きいものの、其他地区は50%以下 ・素鷲以外の地区では不便地域、空白地域の人口比率が高い（22～44%に増加） 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通の利用促進 ・<u>高齢者への移動対応</u> ・拠点地区での鉄道、バス等との乗継ぎ ・<u>不便地域、空白地域の対応</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>地域状況に応じた公共交通の再編（不便地域、空白地域を対象）</u>

参考：松山市地域公共交通網形成計画

5. 基本方針

石井地区内には、松山市地域公共交通網形成計画 各地域の公共交通の現況・課題の表（上図）にあるように、高齢者が気軽に利用できる移動手段の確保や、不便地域・空白地域の状況に応じた公共交通の再編など、公共交通に関して解決すべき課題が多く存在します。私たちは、住み慣れた町で暮らし続けるために早急に地域公共交通網を整える必要があると考え、松山市内で先行事例がある「チョイソコ」を地域に導入し、おでかけ支援を行うことにしました。

地域住民の移動の自由が保障されることによって生まれる相乗効果は計り知れません。加齢に伴い心身機能が弱っていく高齢者が自由に外出を愉しむことで、要介護状態に近くスピードを緩やかにし、フレイルの予防や健康寿命の延伸につながる可能性があります。

そして、企業で一番重要な働き手である世代は、老親と向き合う世代でもあります。高齢者の健康寿命が延びるということは、企業で重要な働き手である世代の住民が安心して働けることにもつながると考えられます。

私たちは、移動手段の確保はあくまでも「まちづくり」の一環であり、まち全体の良い循環を生むための出発点になることを目指し活動を行っています。今後は同じ思いをもった仲間を増やしながら運営を行っていくことで、これまで以上に多くの人に「豊かな移動」をおすすめでき、まち全体の「豊かな暮らし」の実現に近づけると考えています。

1. 事前調査

石井地区住民の外出状況を把握するため、星岡の住民に対してアンケート調査を実施しました。図1の結果から、すでに星岡の住民の約半分がおでかけ手段に困っていることがわかります。おでかけ手段に困っている人と困っていない人でゆしみの活動に行くことがある割合が大きく違っており（図2）、おでかけ頻度の充足度を見ると（図3）、おでかけ手段に困っている人ほど「もっと行きたい」「実は行きたい」と回答していることがわかります。外出手段さえ確保できれば住民の外出頻度を高めることができると考えられます。

図1

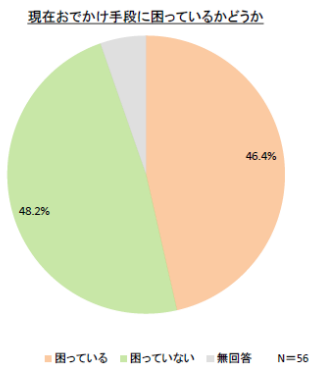


図2

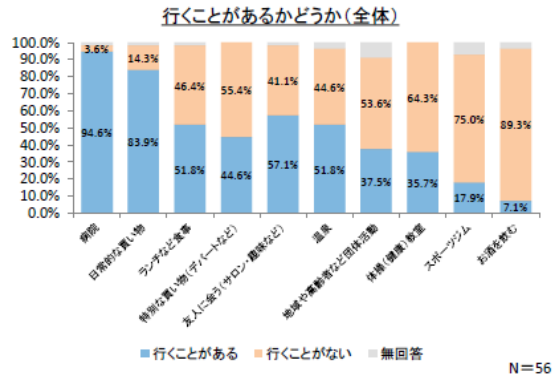


図3

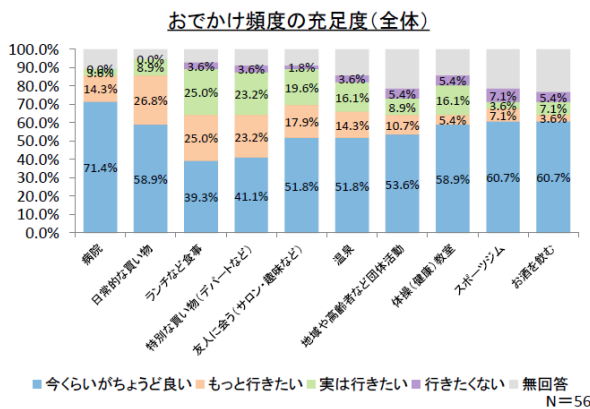


図4

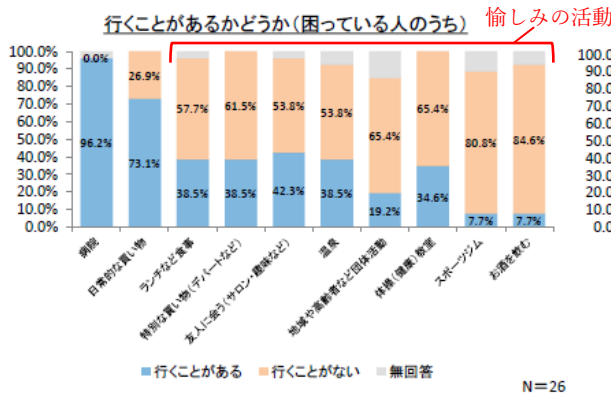


図5

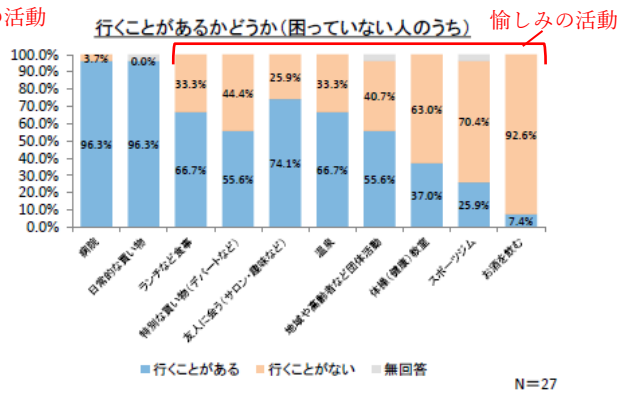


図 6

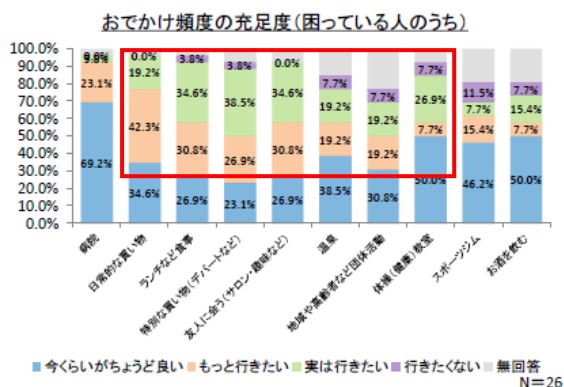
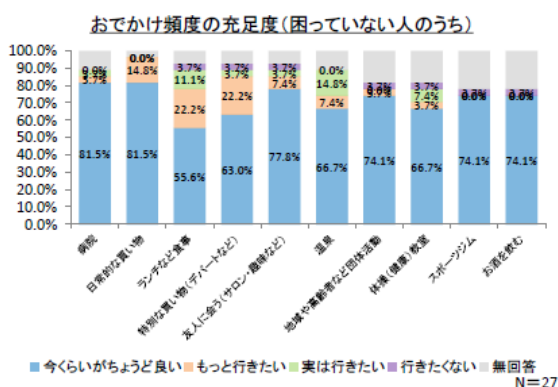


図 7



2. 先例となるチョイソコひさえだについて

2021年11月から松山市久枝地区で運行しているチョイソコひさえだの視察や運営メンバーへのヒアリングを行い、現在石井地区にある移動の悩みの解決手段となるか、また石井地区での運行が可能かを探りました。

① チョイソコひさえだの運行形態の確認

・利用者

久枝地区(久万ノ台・問屋町・安城寺町・東長戸1～4丁目・西長戸町・船ヶ谷町・高木町・鴨川3丁目)の住民

・停留所

主に久枝地区内に、「チョイソコひさえだ」の乗降ができる場所として、停留所を約250ヶ所設置

・運行日および運行時間

運行日は、下記を除く平日

(1) 土曜日・日曜日・祝日

(2) その他天候条件や災害など安全な運行に支障がある日

(3) 年末年始・夏季休暇など運行事業者と運営主体が別に定めた日

運行時間は、交通事情などによりやむを得ない場合を除き、9:00～12:00と13:00～16:00の1日6時間

②地区情報の比較

松山市久枝地区の場合		松山市石井地区の場合	
世帯数	9,241世帯	世帯数	25,379世帯
人口	19,990人	人口	59,594人
65歳以上人口	5,033人(25.2%)	65歳以上人口	13,123人(22.0%)
75歳以上人口	2,325人(11.6%)	75歳以上人口	5,941人(10.0%)
高齢者のみ世帯数	2,242世帯	高齢者のみ世帯数	5,113世帯
高齢者のみ世帯人口	3,420人	高齢者のみ世帯人口	7,820人
単身高齢世帯数	1,064世帯	単身高齢世帯数	2,406世帯
高齢夫婦世帯数	1,178世帯	高齢夫婦世帯数	2,707世帯
面積	4.89km ²	面積	7.50km ²
人口密度	4,089人/km ²	人口密度	7,946人/km ²
65歳以上人口密度	1,029人/km ²	65歳以上人口密度	1,750人/km ²
75歳以上人口密度	475人/km ²	75歳以上人口密度	792人/km ²
事業所数	1,047ヶ所	事業所数	2,267ヶ所

参照：松山市「町丁別住民基本台帳登録者数（令和5年7月1日現在）」

松山市「地区別年齢別住民基本台帳登録者数（令和5年7月1日現在）」

2020年国勢調査データ 2006年事業所・企業統計調査

石井地区は、久枝地区と比べると面積が約1.5倍・65歳以上人口は約2.5倍となっており、地区内に目的地となる場所も多いことから、全域をカバーするには2台での運行が適していると考えました。まずは利用登録可能範囲を石井東7町（天山・星岡・今在家・東石井・越智・北土居・土居）に限定して運行を開始し、その後石井地区全域へ拡大しました。今後速やかに2台目の実装を目指します。

③運営メンバーの確保

チョイソコの運行には、運行事業者や予約受付センターはもちろん、利用方法について説明を行う運営主体が必要です。そこで、まずはNPO法人の立ち上げを行いました。立ち上げにあたっては、「地域のために自分も何かしたい」という思いをもった有志の住民や、「地域住民があって成り立っているのだから、地域の方々の生活を豊かにする手段として協力したい」という事業者が集まりました。事業者からは協賛金という形で運営資金をいただいておりますが、金銭以上に知恵を出し、企業としてまちづくりに参画する姿勢をもつ事業者ばかりです。住民と企業が協働して、健康増進と孤立のない地域づくりを目指すこと、そしてなにより自分たちが住むまちのまちづくりへの参画を進めることを目的とし、「NPO法人石井わくわく物語」として活動を始めました。

NPO法人 石井わくわく物語 私たちの想い

創業の精神

高齢者や子育て世代を中心に、「おでかけ困難者」がこの地域にたくさんいるのではないかと、住民の1人として感じていました。好きな時に好きなところに行けることは、人生を豊かにするための横っこの部分であるにも関わらず、これが叶わない。そのような状況が続けば、地域が衰弊し、「住み続けられる町」ではなくなってしまふ。このような危機感がありました。

実際に、どのくらいおでかけ困難者がいるのか把握すべく、75歳以上の方を対象にしたヒアリング調査をしました。その結果、およそ半数の方がおでかけ困難者であることが分かりました。高齢者が出かけられないということは、多くの問題を誘発します。フレイルの進行に繋がるでしょう。地域経済にダメージを与えるでしょう。地域コミュニティが過疎化してしまう。

原因が「おでかけが困難である」ということです。これを解消すれば良いのです。公共交通の問題ですから、行政や交通事業者が手当をすべきとも考えました。しかし、この手の対策・政策は、どういわけか遅々として進みません。そんな時、先行事例である「チョイソコひさえだ」「チョイソコおのくめ」を知りました。地域が主体となってこの問題を解決する方法があるのだと、勇気が湧いてきました。地域の問題は地域で解決しよう、決意しました。

私たちは、今まさに目の前で困っている人に手を差し伸べます。その積み重ねが、「住み続けられる町」に繋がると信じているからです。

2023年2月14日 平岡直由美

理念

使命

私たちは、石井地区に暮らす全ての人の、いつまでも人生を豊かに過ごしたいという期待に、「おでかけウェルカム地域」を創生することによって応えます。

価値観

私たちは、「わくわく」を大切にします。	私たちは、「かかわり合い」を大切にします。
私たちは、「やってみる」を大切にします。	私たちは、「みんなの幸せ」を大切にします。
私たちは、「おたがいきま」を大切にします。	私たちは、「みんならしさ」を大切にします。

行動指針

いつも元気で、楽しいことばかり考え盛り合っています。	いつも主体的なので、結果としてたくさんの方が集まります。
いつも前向きで、持ち前のチャレンジ精神を発揮しています。	いつもバランスが良く、どこかにしわ寄せが行ったりはしません。
いつも優しく、全ての関係者が安心して活動しています。	いつもこの想いを胸に、これこそが「らしさ」であると知っています。

ビジョン

私たちは、「住み続けたい石井地区」を実現します。理想とするのは、次のような状態です。
 運転免許返納がしやすく、交通事故のリスクが低いので、金世代が安心して暮らせます。
 好きな時に好きなところに行けるので、金世代が心身とも健康に、毎日楽しく暮らせます。
 みんながまちづくりに主体的なので、世代を超えたコミュニケーションの場がたくさんあります。
 なにより、みんな石井地区のことが大好きです。

3. チョイソコいしいの導入

チョイソコひさえだの視察と地域住民へのアンケート調査から、ドアツードアで利用できるチョイソコがあれば外出頻度を高めて愉しみの時間を増やすことができると考えました。さらに収支として、石井地区内の事業者数は2,267ヶ所、75歳以上高齢者数はおよそ5,941人と、地域全体で少しずつ費用を負担することで石井地区内で収支を完結させることができると判断し、チョイソコいしいの導入を決定しました。

【チョイソコいしいの運行形態】

① 利用者

運行範囲の性質から、利用できるのは石井地区にお住まいの方とします。また、車両の性質から、介助の必要がなく1人で乗り降りできる方とします。

② 停留所

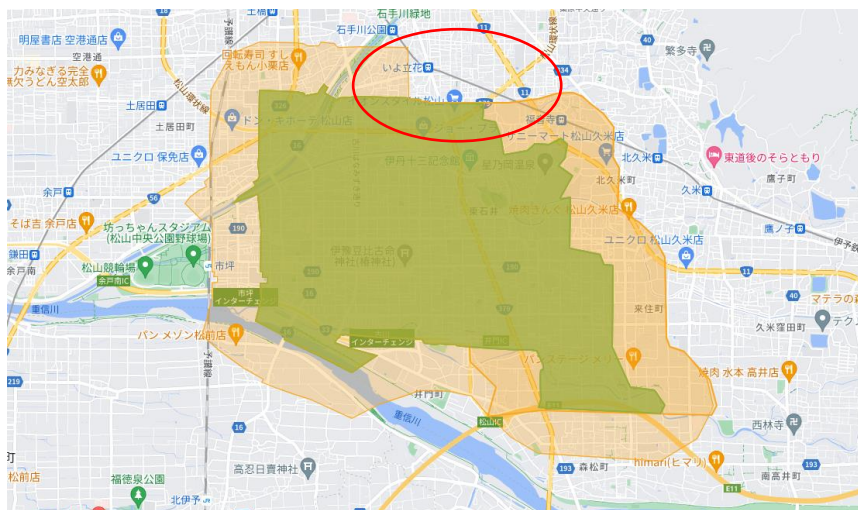
運行範囲内に、「チョイソコいしい」の乗降ができる場所として、停留所を約200箇所程度設置します。停留所の場所については状況により随時見直しを行います。

③ 対象区域

「チョイソコいしい」の対象区域は下図のとおりです。緑色は、石井地区の範囲。オレンジ色は、石井地区と周辺地区（福音寺町・北久米町・南久米町・来住町・南土居町・井門町・森松町・土居田

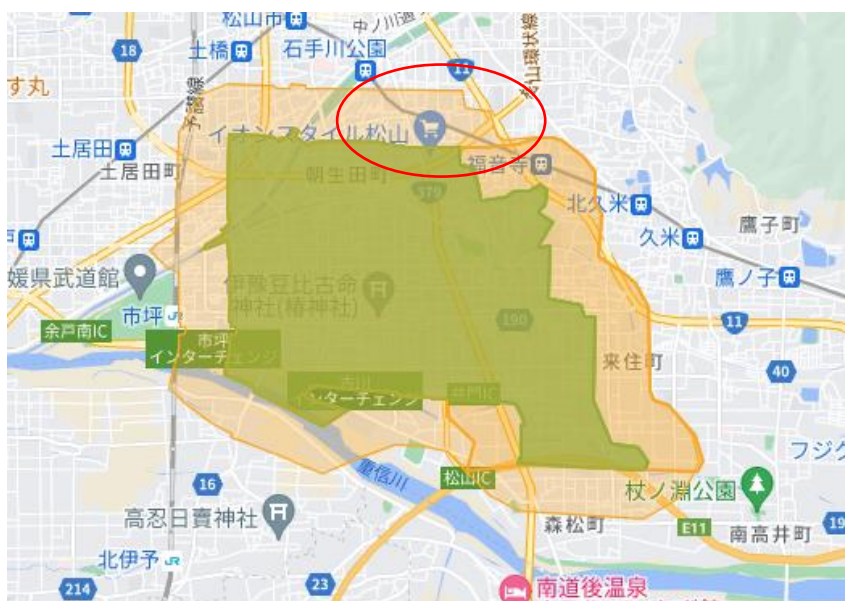
町・市坪北・市坪南・伊予郡松前町中川原・伊予郡松前町徳丸)の一部を含めた運行範囲とします。周辺地区を運行範囲に含めることで、気軽に利用できる移動手段をもたない高齢者がおでかけしたい範囲をある程度カバーできると考えました。

図8【現在の運行範囲】



なお、運行効率の観点、また既存の交通事業者への配慮として、立花駅周辺は運行範囲に含まれていません。ただし、2台目の構想もあることから、運行範囲としては定め、実際に立花駅周辺を目的地にするかどうかは、運営判断としたいところです。

図9【理想の運行範囲】



④運行日および運行時間

運行日は、下記を除く平日とします。

- (1) 土曜日および日曜日
- (2) 祝日
- (3) その他天候条件や災害など安全な運行に支障がある日
- (4) 年末年始・夏季休暇など運行事業者が別に定めた日

運行時間は、交通事情などによりやむを得ない場合を除き 9:00～12:00 と 13:00～16:00 の 1 日 6 時間とします。早朝や夕方以降のタクシーが稼働しやすい時間を避け、既存の交通事業者への影響が少ない時間帯に限定しています。なお、土日祝日・長期休暇を運休日とする理由も同様です。

⑤利用料金

利用料金は、以下の 2 パターンとします。

- (1) 1 人につき 1 ヶ月 3,500 円（消費税および地方消費税含む）の定額乗り放題制とする
- (2) 同世帯で 2 人以上が会員登録をする場合、2 人目以降は 1 ヶ月 3,000 円（消費税および地方消費税含む）の定額乗り放題制とする。

⑥予約のルール

利用者が「チョイソコいい」を利用する場合、電話による予約が必要です。予約時には、乗降場所・希望時間などを伺います。電話以外による予約は受け付けず、また予約内容以外の乗降はできません。予約は、ネットヨタ瀬戸内株式会社モビリティ事業部で受け付けます。予約受付は 2 週間前から 30 分前までとし、予約受付時間は平日 8:30 から 15:30 までとします。

⑦車両

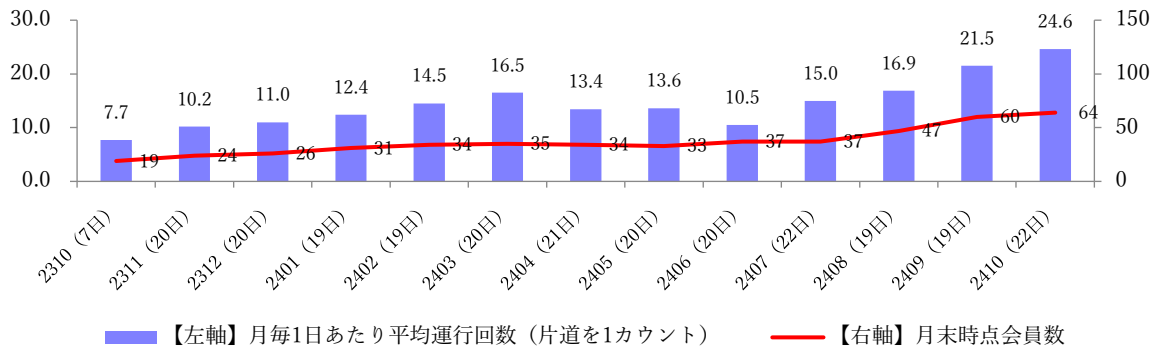
1 台目の運行事業者は、すみれ第一交通株式会社とし、同社所有の車両（7 人乗りノアウェルジョイン）を使用します。住民からの要望により 2 台目以降の車両を実装する場合、すみれ第一交通株式会社または石井地区内およびその近隣のタクシー会社を運行事業者とし、車両については同様に当該運行事業者所有の車両を使用するものとします。

4. 運行状況

運行開始した 2023 年 10 月から 2024 年 10 月までの利用実績です。

図 10

チョイソコいしい 平均運行回数と会員数の変化



5. チョイソコ導入前後の変化

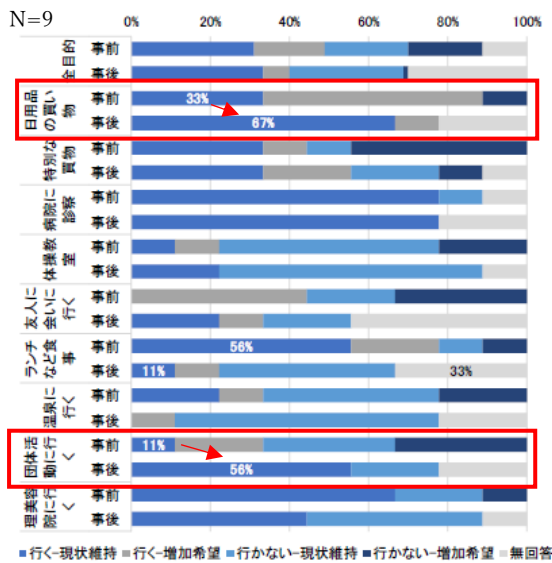
チョイソコ導入後、利用している地域住民の心身にどのような変化があったのか調査を行いました。

①外出頻度の変化

それぞれのお出かけ内容について普段から「行く」か「行かない」か、頻度は「今のままでいい」か「増やしたい」かを聞き、チョイソコを利用する前後での変化をまとめました。日用品の買い物や団体活動に行くという項目では、「行く- (頻度は) 現状維持がいい」という回答が増加しています。チョイソコを利用するようになって、「行く- (頻度は) 増加希望」だった人たちが自由におでかけを愉しめている結果と考えられます。

なお、運行を開始してから 3 ヶ月という短い期間での事後アンケート調査であること・回答者が 9 名と少ないことに注意が必要です。

図 11



出所：愉しみの交通プロジェクト報告会
大阪工業大学工学部都市デザイン工学科
准教授 西堀 泰英

②消費額の増減

チョイソコ運行前（事前）と運行開始後（事後）のそれぞれ2週間、「いつ・どこで・どんな手段で行き・いくら支払ったか」を記録し、消費額の変化を調査しました。

回答があった4人分の消費額総額のうち、眼鏡や商品券購入等の高額かつ低頻度の買い物を除いた日常的な消費額総額を比較すると、4人全員がチョイソコ導入後に消費額が増加していました。また、消費額だけではなく消費回数も増えていることが分かりました。

今回は4人分のデータであり件数と期間に限られるため、今後さらなる検証を行っていきます。

<記入例>

日付	内容 ※選択肢1 から選択	消費した店舗、施設、場所 ※できるだけ具体的に	交通手段など ※選択肢2 から選択	消費金額 (円)
10月14日	1	マルナカ東石井店	5	1890
10月15日	6	星乃同温泉	7	800
10月21日	2	はなまる整骨院	5	1200

選択肢1			選択肢2		
番号	項目	例	番号	項目	例
1	買い物	スーパー、コンビニなどの買物等	1	バス	いよてつバスなど
2	医療費	診察料、薬代など	2	チョイソコ	※運行開始後のみ
3	給食費	月謝、会費など（1か月分）	3	電車	いよてつ電車など
4	給食費	部屋払い（1回分）	4	タクシー	タクシー
5	外食	ランチや飲み会などの飲食代	5	自転車（自分で運転）	自分で運転する自転車
6	趣味・娯楽	カラオケ、温泉などの料金	6	自転車（送迎）	送迎の運転する自転車
7	交通費	鉄道入札券・運賃、駅弁代等	7	二輪車	自転車、原付など
8	その他	上記にあてはまらないもの	8	徒歩など	歩いて、シニアカーなど
			9	電話・電源	電話、どくしまる、神がかりなど
			10	買い物代行	ヘルパーさんによる買い物など

図12 回答があった消費額総額 4人分

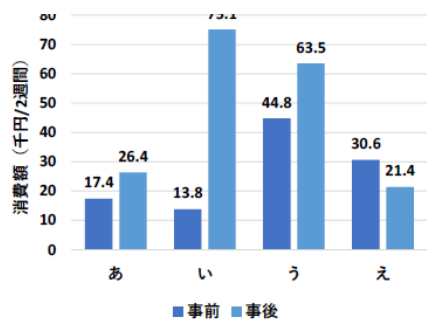


図14 回答があった消費回数 4人分

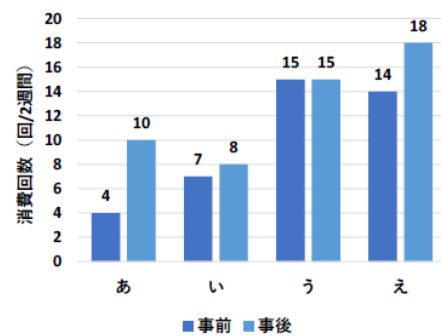


図13 日常的と思われる消費額総額 4人分

(左から特別な買い物を除外)

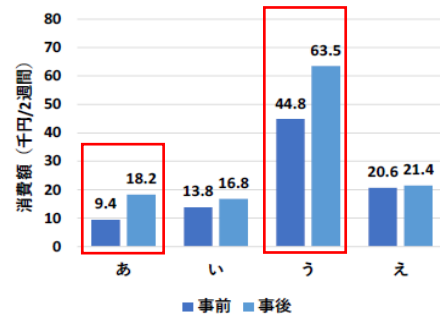


図15 日常的と思われる消費額総額 4人分

(左から特別な消費を除外)

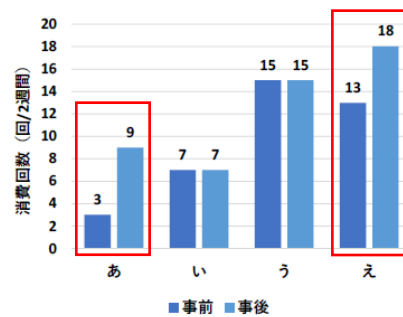


図 16
買物内容別消費額（日常的）4人分

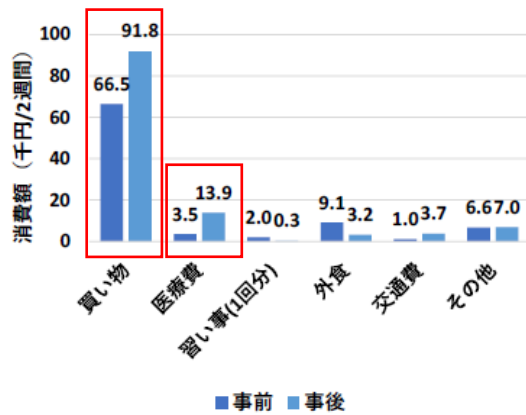
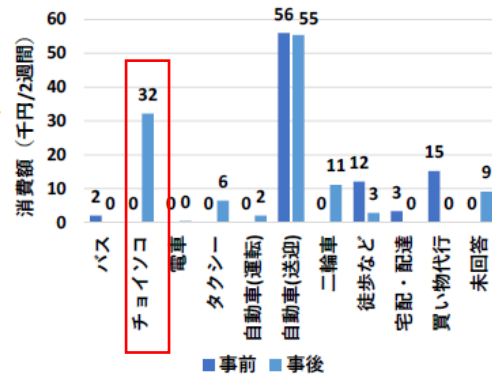


図 17
交通手段別消費額（日常的）4人分



出所：愉しみの交通プロジェクト報告会

大阪工業大学工学部都市デザイン工学科 准教授 西堀 泰英

③外出機会の創出

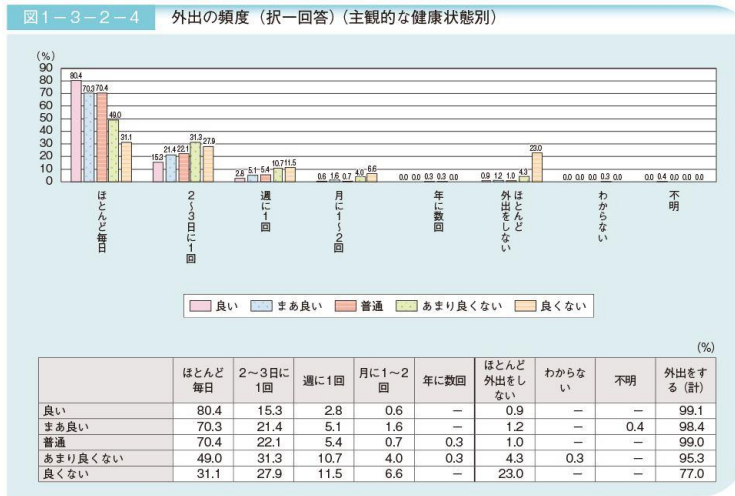
チョイソコいいでは単なる外出手段の提供だけではなく、定期的にイベントを開催する「外出機会の創出」にも力を入れています。最初に開催した茶話会ではチョイソコの利用者だけでなく、地域から「チョイソコが気になっていたから話を聞きたい」という方も参加されました。他にも編み物をする「毛糸の会」を開催したり、公民館での催しにチョイソコで送迎を行うなど、利用者が愉しんでおでかけが出来る機会づくりを行っています。

↓茶話会の様子



外出頻度の違いが心身のフレイルに関連していることについては既に様々な調査がされています。好きな時に好きなところにおでかけができ、全世代が心身とも健康に毎日楽しく暮らせるまちにするために、今後も様々な取り組みを行う予定です。

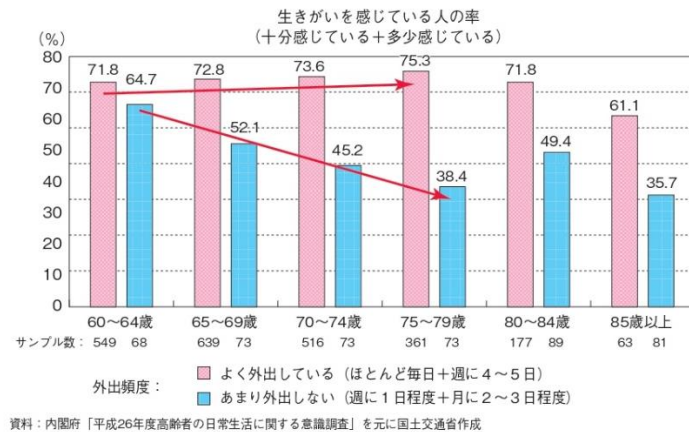
図 18



出所 内閣府 平成 30 年度版 高齢社会白書

図 19

図表2-1-1-24 外出頻度別の生きがいの充足度合い



出所 国土交通省 令和 2 年度版 交通政策白書

6. 県内外からの評価

松山市内で運行しているチョイソコのしくみ（住民主体・行政補助なし）は、県内外を問わず多くの注目を集めています。

○視察（一例）

- 2022年7月 愛媛県庁、今治市役所（チョイソコおのくめ）
- 2022年7月 中予地方局、大阪工業大学（チョイソコおのくめ）
- 2022年9月 和歌山大学（チョイソコおのくめ）
- 2022年10月 富山県氷見市（チョイソコおのくめ）

- 2022年10月 神奈川県横浜市（チョイソコおのくめ）
- 2023年9月 トヨタ自動車株式会社（チョイソコひさえだ）
- 2024年8月 京都府八幡市（チョイソコひさえだ）
- 2024年11月 富山県魚津市（チョイソコひさえだ、チョイソコおのくめ）



○日本モビリティ・マネジメント会議 (JCOMM)

このチョイソコのしくみは全国的に評価されており、2022年から3年連続でJCOMM賞を受賞しています。

※JCOMM賞は、国内のモビリティ・マネジメントの実務発展と技術発展を意図して設置されたものであり、国内の様々な取り組みや研究の中でも特に優秀なものを日本モビリティ・マネジメント会議 (JCOMM) 実行委員会として選定し、その実現に貢献した個人・団体を表彰するものです。

2022年
第17回日本モビリティ・マネジメント会議
ポスター賞受賞

利用者と地元企業が支える住民参画型の持続可能な移動の仕組みが実現した秘訣とその効果
—チョイソコひさえだの実践—

◆豊かな移動で豊かな暮らしを実現する定額制送迎サービスチョイソコひさえだ

◆公金投入ゼロで運営する仕組み

◆利用者の評価は良好！しかも公金投入ゼロを達成！

◆久枝モデル実現の秘訣

◆より多くの地区での「豊かな暮らし」の実現に向けて

7. まとめ

チョイソコは「自分たちの地域は自分たちでよくしよう」という想いの基、地域主体で進んでいったプロジェクトであり、試行錯誤しながら運営をしてきました。なかなか地域の中で理解を得られなかったり、これまで馴染みのない仕組みに対する戸惑いの声を含めた様々な意見をいただいたりと歯痒い思いをしたこともあります。しかし、地域のためにと、諦めずに仲間たちと自らを奮い立たせてきました。おかげで徐々に地域に根付いていき、「チョイソコがある町 いい」として浸透してきたように思います。また先述のようにチョイソコを通して確実にお出かけ総数は増え、フレイル予防につながり、地域が元気になったと強く感じます。何より地域が主体となって本気で取り組めばこのように課題解決ができるということを身をもって体感し、勇気と自信を持つことができました。

ここまでの取り組みを通して特に感じたこと。それは、問題・課題を明確にすること。目的を明確にすること。多様な人が自分事と捉えること。この3点です。幸い、ノウハウは蓄積することができています。実際に他の地域にも似た趣旨の取り組みが拡がりつつあります。必要に応じて、このノウハウを提供する用意もあります。

私たちはこれからも、「自分たちの地域は自分たちでよくしよう」という想いの基、取り組みを進めます。この取り組みが契機となり、おでかけに関する問題を自分事として捉える人の輪が、松山市内全域に拡がることに期待しています。